

令和2年度京都市職員採用ガイダンス（動画）  
「若手職員による座談会」 発言概要

【司会】

ただいまから、座談会を始めます。私は進行役を務めさせていただきます、人事委員会事務局の梁川と申します。よろしくお願いいたします。

本日の座談会の参加職員は、全員一般事務職・行政職で、7名の職員に集まっていただきました。

それでは、はじめに、みなさんに自己紹介をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【平野】

平成30年度採用、採用2年目の平野 純輝と申します。よろしくお願いいたします。所属は文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課です。

【司会】

具体的には、どのような業務を担当されていますか。

【平野】

京都市の文化の振興に関わる事業を実施しています。伝統芸能文化の活性化を目指す「伝統芸能文化創生プロジェクト」、京都市の文化芸術の発展に寄与した方を表彰する「京都市芸術新人賞・芸術振興賞」などを担当しています。

【司会】

いかにも京都市らしい業務と思いますが、担当してみていかがですか。

【平野】

京都市では文化を基軸にしたまちづくりを推進しており、その一端に携われることにやりがいを感じています。最近では、コロナウイルス拡散防止のための小中高校の臨時休校が決定してすぐに、子どもたちが自宅で楽しめる文化芸術のウェブサイト「おうちでアート」を立ち上げました。このような企画が他の部局や、アーティストさんの協力を得ながら迅速に実現できるのは京都市だからこそできることであり、業務のモチベーションにつながっています。

【司会】

なるほど。文化庁が京都へ移転することもあるって、京都は文化振興に非常に力を入れています。京都市ならではの事業部署で働けることは魅力的ですね。

では、続きまして、大野さん、よろしくお願いいたします。

【大野】

平成31年度採用、採用1年目の大野 優香と申します。西京区役所地域力推進室に所属しています。市民しんぶんの西京区版の制作等の区の広報に関することや、区をPRするイベントの企画・運営を行っています。

【司会】

市民しんぶん各区版や各区の PR イベントは、区役所の独自性が出せるので、各区がいろいろ工夫して PR していますが、どのようにお仕事されていますか。

【大野】

西京区には「たけにょん」など区政 PR キャラクターがいます。PR キャラクターがいることで広報の幅も広がり、おもしろいです。主な担当である市民しんぶんは、区の広報媒体として多くの方が目にするものですので、とてもやりがいがある仕事ですが、情報の誤りは許されないので、責任感をもって業務に取り組んでいます。

【司会】

市政の情報発信というのも、大切な業務のひとつですね。

では、もう一人、区役所で勤務している、吉野さんお願いします。

【吉野】

平成 31 年度採用で採用 1 年目の 吉野 智貴 と申します。伏見区役所保健福祉センターで生活保護のケースワーカーをしています。

【司会】

市役所職員でケースワーカーというのはよく耳にしますが、具体的にどのような仕事をしているのでしょうか。

【吉野】

具体的には、生活保護受給世帯に家庭訪問を行い、世帯ごとの状況を把握して、適切な生活費を支給しています。京都市では、職員一人あたり、80～100 世帯程度担当していて、各世帯の自立に向けて必要な支援を受けるためのサポートを行っている。

【司会】

どんな点にやりがいや大変さを感じますか。

【吉野】

市民の方の生活に密接に関わるため、医療、介護、福祉はもちろん様々な分野について幅広く学べることにやりがいを感じています。

一方で、法律や制度について詳しくない方に対して、分かりやすく説明し、納得してもらうことの難しさを感じています。

【司会】

なるほど。一人ひとりの生活に寄り添った、責任を伴う大切な仕事ですね。

それでは、次に交通局の伊勢さん、よろしくお願いします。

【伊勢】

平成 26 年度採用で、現在、採用 6 年目の 伊勢 拓矢 と申します。交通局営業推進室に所属しています。

【司会】

営業推進室では、どのような業務を担当されていますか。

【伊勢】

主に ICOCA や PiTaPa といった市バス・地下鉄での IC カード乗車券の普及促進であったり、運賃制度の企画立案や構築など、お客さまサービスの導入に係る業務を担当しています。

【司会】

こういったところにやりがいを感じますか。

【伊勢】

お客さまにとって便利で利用しやすい新たなサービスをしっかりと検討して、形にして提供することにやりがいを感じています。

【司会】

交通局のお仕事は市民の暮らしを支える大切な仕事ですね。

【伊勢】

そうですね。具体的には IC カードによる定期券や乗継割引サービスを導入した際には、関係事業者や監督官庁との協議、調整など大変な面もあったのですが、市民の方から便利になったとのお声をいただいたときに、自分の仕事が京都のまちを支えていると実感することができ、大きな達成感を味わうことができました。

【司会】

ありがとうございます。

それでは、次に上下水道局の悦田さん、よろしくお願いします。

【悦田】

平成 28 年度採用で、採用 4 年目の 悦田 美友紀 と申します。上下水道局総務部職員課に所属しています。職員の人事や労務に関する内部管理事務を行う部署で、私は職員の採用業務や内定者とのやりとり、局内の人事異動等を担当しています。

【司会】

これまでの仕事の中で、印象に残っているものはありますか。

【悦田】

職員の採用業務は、1 年間を通して採用広報や試験、内定者への連絡や説明会を行います。実際に自分が採用を担当した職員の採用発令を行ったことが特に印象に残っています。

【司会】

総務や人事の内部管理のお仕事は、市民の生活と直接関わるものではありませんが、職員の業務を支えるうえで大事な仕事をされていますね。

それでは、次に教育委員会事務局の伊藤さん、よろしくお願いします。

【伊藤】

平成 24 年度採用、教育委員会事務局 生涯学習部 学校地域協働推進担当に所属している伊藤 紗織 と申します。私が主に担当している業務としては、小学生が取り組む「歴史都市・京都から学ぶジュニア京都検定」という事業の運営や、スマホ等の利用による危険性・依存性から子どもを守るため、学校現場等で、児童・生徒や保護者、一般市民向けに啓発活動を行う「情報モラル市民インストラクター」派遣事業等を担当しています。

【司会】

どのようなときにやりがいを感じましたか

【伊藤】

情報モラル市民インストラクターの方と打ち合わせしながら、新しい学習プログラムを作成する業務があり、作成に時間がかかりましたが、実際に現場の先生やインストラクターの方が保護者の方に向けて授業を行った際に、好評で、手ごたえがあった時はやりがいを感じました。

【司会】

なるほど。市民だけではなく、様々な方々と関わりながら業務を進められているんですね。では、次に若手ですでに係長となっておられる春名係長、よろしくお願いします。

【春名】

はじめまして。平成22年度採用で、入庁して10年目の春名 雅史と申します。現在は3つ目の職場で、行財局資産活用推進室で学校跡地を活用するという業務を担当しています。係長としては2年目になります。

【司会】

学校の跡地活用とは具体的にどのような業務をされているのですか。

【春名】

京都市でも少子化が進んでいることに伴って、学校の統廃合が進んでおり、閉校した学校跡地を活用する業務に従事しています。みなさんは、「番組小学校」というものを聞いたことがありますか。京都出身の方以外は馴染みがないかもしれませんが、京都市には、明治時代の先人達が、私財を出して設立された「番組小学校」が多くあり、現在も、自治活動や防災の拠点として、地域の皆様に親しまれていて、重要な場所です。そういった市民の貴重な財産を、新たな役割を持った施設に生まれ変わらせるという大事な仕事を担っていると思います。

【司会】

大変そうな仕事のように思いますが、どういった点にやりがいを感じられますか。

【春名】

地域の皆様からの様々な意見への対応もありますし、民間事業民間事業者との折衝、市役所内部の関係部署との連携など、多方向の調整に奔走しなければならず、大変な部分があります。一方で、関係者の理解と協力を得ながら、少しずつ事業が形となり、地域の皆様に喜んでいただいている姿を見ると、頑張ってきて良かったと思います。

【司会】

地域に愛されている小学校の有効活用は、市役所の大きな仕事の一つです。春名係長はその中心的な役割を担っているんですね。

【司会】

ここまで、みなさんに仕事内容などについてお伺いしてきましたが、続いて、別のテーマでみなさんにお聞きしていきたいと思います。まずは職場の雰囲気について聞いてみたいと思います。大野さん、職場の雰囲気はどうか。

【大野】

周りの職員は、みなさん優しく教えてくれて、質問もしやすいです。業務中に笑いもあり、楽しく仕事できていると思います。

【司会】

同じ質問を別の方にも聞いてみましょうか。伊勢さん、職場の雰囲気はどうか。

【伊勢】

職場は職員数が多く、いつも明るい雰囲気で仕事をしています。職員同士の仲も良く、分からないことや困ったことがあれば、お互い助け合える環境です。

【司会】

上司や同僚とコミュニケーションが取りやすい、風通しの良い職場というのは、働くうえでとても重要なことです。

逆に上司の立場からも、話を聞いて見ましょう。春名係長、部下との関係づくり、いい職場づくりのために工夫していることはありますか。

【春名】

必要以上に「役職」を意識しないことが大事だと思います。仕事を接点とするだけでは「縦の人間関係」になりがちなので、年齢が近い「横のつながり」、近しい部署の人や共通の知り合いを通じた「斜めの交流」、**「外との交流」**も大事にしていただけたらと思います。

私の職場では、毎朝始業時にお茶を飲みながら各自の業務の進捗管理を共有するという時間を設けていて、雑談も交えながら、チーム全員で言葉を交わすことで、役職に関係なく話ができる雰囲気ができていると思います。

【司会】

なるほど。御自身から積極的に声をかけることで、気軽に話しかけやすい関係を作っているんですね。

さて、職場内のことについて何名かにお伺いしましたが、続いて、同期の職員との関係についてお伺いします。

悦田さん、同期の職員とは、プライベートでも会ったりするんですか。

【悦田】

同期とは定期的に飲み会を企画し、情報交換をしています。同期それぞれが、様々な仕事をしているので、自分の仕事をしているだけでは知ることのできないことやそれぞれの職場の雰囲気を教えてもらえて、おもしろい。

【司会】

同期の職員は、仕事でもプライベートでも頼りになる、助けあえる仲間ですよ。同期の職員とのつながりは大切にしたいですね。

【司会】

次に、京都市職員として働くことの魅力について、お聞きしたいと思います。吉野さんは働いてみて、京都市の魅力は何だと思いますか。

【吉野】

幅広い業務内容を経験できることが魅力だと思います。実際働いてみても、その業務内容の幅広さは想像以上と感じています。

【司会】

そうですね。政令指定都市なので、都道府県の権限も委譲されていて、市町村業務と都道府県業務と両方を行っているので、業務の幅広さは京都市で働く魅力のひとつですね。

では、伊勢さんは、どのような理由で京都市を志望されましたか。

【伊勢】

生まれ育った京都市の発展に貢献して、より良いまちをつくりたいとの思いから京都市職員を志望しました。市内の至るところを走っているバスをみると、自分の仕事がか少しでも京都市のためになっていることを実感でき、嬉しく感じています。

【司会】

市民との距離が近いので、市民のために働いていると実感できるところも京都市職員として働く魅力ですね。

悦田さんはどうですか？

【悦田】

私は、市民生活に直結した仕事をしたかったのと、京都へのあこがれがあり、また、学生時代から家庭をもちながら、長く働きたいという強い気持ちもあって、公務員として京都市を志望しました。

【司会】

家庭をもちながら働きたいという思いがあったとのことですが、では、実際に現在子育て中の伊藤さんに聞いてみましょう。家庭との両立はどうですか。

【伊藤】

子育て中ですが、京都市は子育て支援の制度が整っていて、私自身も時短制度も活用し、仕事を続けています。職場も子育て中の方も多いので理解を得やすく、業務分担や業務内容への配慮があり、育児と仕事と両立できています。

【司会】

ありがとうございました。実際に仕事と家庭を両立されているというのは、若手職員にとっても、参考になると思います。

では続いて、将来的のキャリアアップについても聞いてみたいと思います。平野さんは今後どんな職員を目指していきたいですか。

【平野】

私は、ゲーム会社の経営企画から市職員への転職というバックグラウンドを武器に、他の人にはない経験、ノウハウを活かすべきところはしっかりと活かしていきたいと思います。

前職では、企業の経営判断をするうえで必要な情報を入手・整理して、わかりやすく経営層に伝える業務を行っていたので、この経験を活かして、必要な情報を取り入れ、咀嚼してより良い市政運営のために役立てていきたいと思っています。

【司会】

そうですね。仕事は就職がゴールではなく、その後のスキルアップが重要になりますね。ぜひ、前職の経験を市政に活かしていただきたいと思います。

では、春名係長、係長になる前と、なった後でどのような点が変わりましたか。

【春名】

係長になると、自分の意見や考えを仕事に反映でき、その手ごたえを直に感じられるようになりました。一方では、良くも悪くも自分の行動一つで仕事の流れが、良くも悪くも変わってしまいかねないというプレッシャーも感じます。

係長として特に感じたのはチームで仕事をする大切さですね。自分でできることには限界があるので、悩んだ時は、積極的に上司や同僚に相談して、助けていただいたりしながら、チームで仕事をするをしっかり意識するようになりました。

【司会】

ありがとうございました。では、次に、受験を考えていらっしゃるみなさんにとって、今最も関心のあることかもしれない試験対策についても聞いてみたいと思います。吉野さん、筆記試験の勉強は、どのようにされていましたか。

【吉野】

教養・専門試験と範囲が広いため、京都市の試験科目を確認し、出題されない科目については切り捨てるなどの切り替えが大切だと思います。

【司会】

なるほど。面接試験対策はどうですか。

【吉野】

面接試験は、どのように振舞ったら合格するとかはないと思います。ありのままの自分を精一杯面接官に伝えられたら良いのかなと思います。

【司会】

そうですね。では大野さんにも聞いてみましょう。面接試験はどうでしたか。

【大野】

面接試験を受けてみて、言葉づかいは少々間違っても良いですし、堅苦しくする必要はないと思います。いかに自分の言葉で、自分の経験してきたことや京都市への思いについて、話せるかが大事だと思います。

【司会】

ありがとうございます。京都方式で合格された平野さんはどうでしたか。

【平野】

京都方式での採用なので面接がメインだったが、働きながらの受験であったため、京都市政の勉強・分析よりも「自分だけの強みをどう伝えるか」ということに注力しました。

他の誰かと同じような強みでも、自分の捉え方や、相手への伝え方次第で、自分のものに変わるので、そこを意識しながら面接試験に臨みました。

**【司会】**

ありがとうございます。いま、3人に答えていただきましたが、面接では自分の思っていることを素直に答えることが大事なのかなと感じます。ですので、あまり飾らずに、ありのままの自分を見せていただきたいと思います。

では、また話題は変えてお聞きします。受験者の方から、よくされる質問の一つに、「京都市出身でないが受験に不利ではないか」というものがあります。伊藤さんは、京都市出身ではないとのことですが、その点どう感じておられますか。

**【伊藤】**

今思い返しても、これまで京都市出身ではないから困ったり不便に感じたことは特にはないですね。逆に、京都市出身でないからこそ気づく京都の良いところ、悪いところ、独特のところなど発見があっておもしろいと思っています。

**【司会】**

春名係長も京都市出身ではないとのことですが、いかがですか。

**【春名】**

京都市出身かどうかについては特に関係ないと思いますし、心配する必要はないかと思います。住んでいる人だけでなく、働く人、学ぶ人、観光に来る人など、国内外から多くの人を訪れる京都のまちづくりを進めるためには、多様な人材が必要だと思います。なぜ京都市で働きたいのか、どんなことに貢献したいのか、京都市役所で働く自分をしっかりイメージして受験していただければ、問題ないと思います。

**【司会】**

そうですね。京都市では、京都に対する情熱あふれる志の高い人を求めていますので、出身地で有利・不利になることはありません。実際、京都市出身ではない職員もたくさん働いています。

**【司会】**

これまでいろいろとお話しを伺いましたが、最後にみなさんから京都市の採用試験の受験を考えておられるみなさんに向けたメッセージをお一人ずつ、お願いしたいと思います。平野さんから順にお願いします。

**【平野】**

民間企業を考えている人にも、ぜひ、京都市を選択肢に含めてもらったらと思います。京都方式の試験など、筆記試験対策が不要な試験もありますし、実際、京都市で働いてみると、様々な業務があり多様な経験が積むことができます。自分のキャリアに悩みがある人も、京都市で働きながら、自分のやりたい仕事・得意な仕事を見つけていただけたらと思います。

**【大野】**

試験が終わるまで不安が消えることはないと思いますが、自分自身で聞いたもの、見たものは自分を支えるものとして残ります。私たちの話が、みなさんの支えになり、有意義な情報になったら嬉しいです。応援しています。



### 【吉野】

公務員試験は民間試験に比べ、終わる時期も遅いので、あまり無理することなく自分のペースで頑張ってもらえたらと思います。みなさんと一緒に京都市で働くことを楽しみにしています。

### 【伊勢】

京都市には様々な仕事があるので、まず自分がどのような分野に興味があり、どのような仕事をしてみたいのかを考えてみていただきたいと思います。そして、京都市職員として、みなさんの力を発揮していただき、共により良い京都のまちをつくっていただければと思います。皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

### 【悦田】

実際に4年間働いてみて、働くのにも住むのにも良いのが京都市だと感じています。公務員へ抱いているイメージと良い意味でギャップがあり、毎日わきあいあいと楽しく仕事している。試験対策は大変かと思いますが、みなさんと一緒に働けるのを楽しみにしています。

### 【伊藤】

京都市は政令指定都市であるため、業務の規模が大きく、若手職員でも影響力のある仕事ができると思います。いろいろと経験を積むことができ、それによって自分の引き出しが増えていき、これまでの経験が糧となって年々仕事が楽しくなっていると実感しています。みなさんと一緒に働けるのを楽しみにしています。

### 【春名】

京都市の仕事は、本当に多岐にわたります。市役所に入庁して10年ですが、今でも日々、仕事の奥深さを感じています。本日この座談会に参加している職員も、市バス・地下鉄を走らせる仕事、水道を供給する仕事、教育や福祉で市民の生活を支える仕事、文化芸術の推進や観光政策といった京都のブランド力を高める仕事に携わっていて、新聞や雑誌で取り上げられるような華やかな仕事から、税の徴収といった裏方で行政を支える仕事まで、たくさんの仕事があります。京都市役所に関心を持たれた理由は、人それぞれだと思いますが、みなさんが活躍できる場がきっとあると思います。この座談会を通じて、少しでも京都市の仕事は楽しそう、やりがいがありそうだと感じたのであれば、ぜひ、京都市役所に飛び込んでいただきたいと思います。みなさんと一緒に仕事できることを楽しみにしています。

### 【司会】

それでは、これで座談会を終了します。この座談会がみなさんの今後の参考になれば幸いです。ありがとうございました。